

西原塾オリジナル 高校入試の英語勉強法



内容

- 高校入試の英語攻略法…2~3
- 西原塾の英語勉強法の流れ…4
- ステップ1：基礎文法をマスター…5~6
- ステップ2：簡単な英文を読み込む…7~8
- ステップ3：少しずつ英文の難易度を上げていく…9
- ステップ4：高校入試レベルの英文を読めるようにする…10~11
- ステップ5：リスニング開始…12~15
- ステップ1~5の合間に：細かい時間にも英語に触れる…16~17
- よくある質問…18~20
- 洋書を読む時の心得…21
- 要約文・感想文を書く時の心得…22

高校入試には都道府県公立入試と私立高校入試があります。このテキストで説明している勉強法は公立入試のような長文重視の試験を前提としています。英検など、単語・熟語重視の試験とは相性が悪いのでご注意ください。ただし、高校入試では都道府県公立入試・私立高校入試ともに多くは長文重視の試験です。

東京都公立高校入試は長文問題を得意にするのが必要不可欠

大門	問題タイプ	問題数	配点
1	リスニング	5	20
2	長文読解+図表	4	24
3	長文読解（会話文）	7	28
4	長文読解（評論/小説）	7	28

この表は平成 28 年度の東京都立入試英語の配点表です。色分けしたように、大門 2.3.4 が長文読解問題で、80/100 と 80%を占めています。このことから、東京都公立入試の英語を攻略する上で長文読解を得意にするのは必要不可欠です。

なぜ長文問題が解けないのか

当然ですが長文問題は難しいです。ここが苦手な子は非常に多いです。では長文問題が解けないのはなぜか。理由は大きく分けて 2 つあります。

- 理由 1：英文が読めないから（=内容が理解できない。）
- 理由 2：英文を読むスピードが遅すぎるから（=時間内に解き終わらない。）

英文が読めないのは**文法知識が足りない**からで、読むスピードが遅いのは**英文を読み慣れていない**からです。

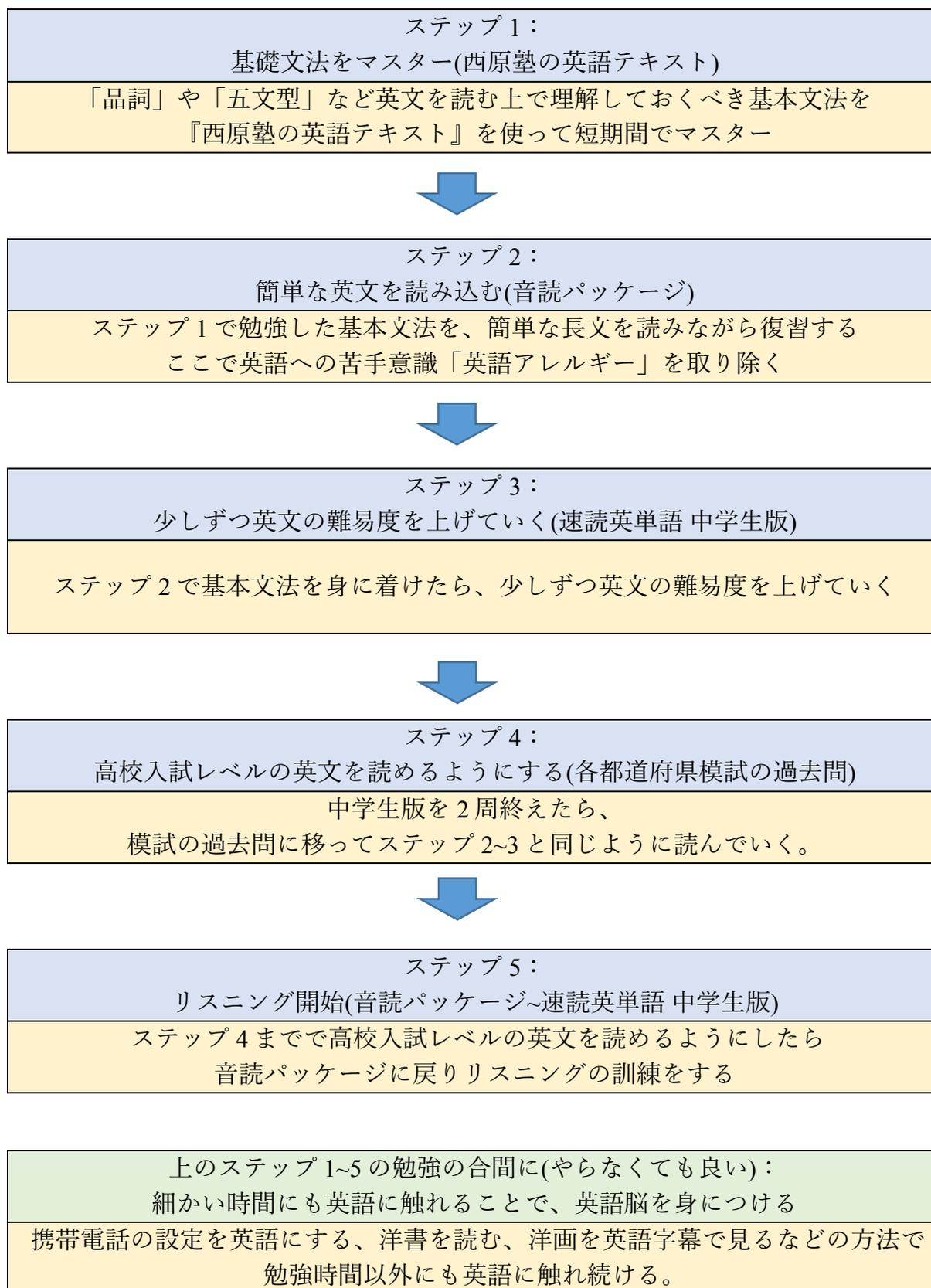
文法知識は参考書が溢れているので簡単に身につけられる、と思っている人が多いのですが、逆に参考書が多すぎて何をやればよいのか見分けがつかなくなっている子が多いです。

さらに後者の問題は、何から読み始めればよいか分からず、いきなり過去問など自分のレベルに合っていない難しすぎる文章に挑戦してしまい、英文に読み慣れる作業が苦痛で続けることができず、途中で挫折してしまうため力が身につけません。

何を、どう勉強すればよいのか全てお教えします。

西原塾で実際に用いられているカリキュラムをそのままお教えします。文法は何を勉強すれば良いのか、長文を読む練習は何から初めて行けばよいのかなど、成績向上に必要な情報を全てお教えします。私が小5から大学入学して英語を読めるようになるまでの約11年の英語学習のうち、効果があったもののみを厳選して再構築した勉強法です。ちなみに、2017年度の2人の中学3年生が偏差値40台から60台へ伸ばした、実績のある勉強法です。

西原塾の英語勉強法の流れ



ステップ1：基礎文法をマスター

まずは英文を読むうえで必ず理解していないといけない基礎文法をおさえましょう。「西原塾の英語テキスト」に必要なすべての文法が載っています。テキストをすべて覚えましょう。

具体的な勉強方法

1. テキストの内容を音読・黙読してとりあえず内容を暗記する
2. 「名詞の定義は何?」「to不定詞は何詞になる?」など文法を自問自答する
(穴埋め問題を作ると良い)
3. その単元の文法が用いられている短い文を品詞分解する
(品詞分解については後述)
4. これを單元ごとに繰り返す
(いきなり「名詞」～「to不定詞」などとやらないこと)

テキストは全ページ暗記+即答が最低ライン

注意しないとイケないのは、この文法テキストの理解度です。このテキストは「なんとなく覚えている」「少し考えれば思い出せる」では全く足りません。このテキストの内容は全ページ即答できるようになるのが最低ラインです。テキストを全て覚えて、なおかつ瞬時に思い出せるまで読み続けましょう。

ただし、テキストのうち「分詞」の「副詞的用法(分詞構文)」は中学生の範囲ではないので飛ばして構いません。

文法は丸暗記ではなく、構造を理解すること

【品詞】【五文型】は「こういうルールがある」としか言いようがないので丸暗記でもいいですが、【to不定詞】【分詞】【接続詞・関係詞】は「なぜxx詞になるのか」を必ず理解しながら覚えてください。

文法を覚えたら品詞分解で練習

テキストに書かれていることを覚えたら、教科書や参考書の英文を覚えた文法で分析しましょう。これを『品詞分解』と言います。品詞分解は英文を品詞ごとに分け、最終的に第何文型の文なのかを確認する作業です。そして、その品詞分解の結果から和訳を出します。巷ではスラッシュリーディングとも呼ばれています。

英文を速く読む=品詞分解が速い

英文を読むということは品詞分解するということです。英文を速く読む人はこの品詞分解のスピードが速いのです。ステップ1~4までで最終的には英文を見た瞬間に品詞分解が終わり、第何文型かが分かるスピードを目指します。だからテキストは全ページ暗記+即答が最低ラインなのです。

品詞分解しやすいおすすめ参考書

品詞分解する英文は教科書や参考書なんでも良いですが、【品詞】【五文型】【to不定詞】【分詞】【接続詞・関係詞】の基本文法が单元ごとに別れているものをおすすめします。基本文法を一つずつ理解し、覚えていくためです。慣れてきたら基本文法が複数同時に使われている複雑な文に挑戦しましょう。

テキストが覚えられない、理解できない場合は

西原塾では、文法は穴埋め問題、品詞分解は第一文型～第五文型、to不定詞・分詞・接続詞・関係詞それぞれ例文を品詞分解する確認テストをオリジナルで作って行っています。

テストを受けることで「どう勉強すれば良いのか」「具体的に何を覚えればよいのか」が明確になり、勉強効率がぐんと上がります。

今まで入塾した生徒たちはみんな基礎文法をほとんど知らない子たちでしたが、全員テキストを覚えてステップ2以降に進んでいます。

ここでつまづいてしまうと永遠に英語は読めるようになりません。どうしてもテキストの文法を覚えられない場合は、1~2ヶ月のみで構いませんので入塾をおすすめします。

ステップ2：簡単な英文を読み込む

ステップ1の基本文法をだいたい即答できるレベルまで覚えられたら、次はその基本文法を実際の英文を読みながら復習していきます。

ステップ2の目標は英文に慣れること

ステップ2では「音読パッケージ」という本を使います。音読パッケージは、

- 単語は高校入試~大学入試レベル(ただし、高校入試寄り)で英語をあまり勉強してこなかった人でも見覚えのある単語が多い
- 文法は【品詞】【五文型】【to不定詞】【分詞】【接続詞・関係詞】という基本文法がまんべんなく使われている
- 熟語などの特殊な文構造はあまり多くない

というもので、基本文法を終了した人がそれらを復習しながら英語の長文を読む練習をするのに非常に良い教材です。

ステップ1では基本文法を单元ごとに、1文ずつ品詞分解していたと思います。例えば「to不定詞」の单元であればto不定詞が使われた文章を1文ずつ品詞分解していたと思います。まずは各基本文法1つずつに集中し、それぞれ理解してもらうためです。

ですが、実際の英文では单元ごとの分類はなく、1文に複数の基本文法が使われていることが当然あります。

音読パッケージは複数の基本文法が同時に出てくるので、実戦に近い文章を読むことができます。しかも単語はそんなに難しくないので、いちいち単語訳を探す必要がなく最初に読む文章としては最適です。

音読パッケージを通じて、基本文法が実際の長文ではどのように出てくるのかを知り、英文に慣れることがステップ2の目標です。

ステップ3へ移る目安

ステップ2の音読パッケージは、全文を品詞分解して、和訳を出しましょう。和訳を出すときの手順は、英文を品詞分解する→直訳(カタコト訳)を出す→それをきれいな日本語に変換する(和訳)です。

もし知らない単語が出ていたら、辞書を使っても構いません。ただし、音読パッケージ内の日本語訳を見ながらはダメです。まずはこれで2周やりましょう。

1題につき、10~15分程度で品詞分解・和訳が終わるようになったらステップ3へ移ってください。もし2周ではそこまで出来なければ3周、4週と繰り返してください。

ステップ3：少しずつ英文の難易度を上げていく

音読パッケージの文章を品詞分解できるようになったら、次は速読英単語 中学生版に入ります。

いきなり過去問に移ると難易度が高すぎて読むのに疲れてしまいます。そうすると毎日続かず、挫折してしまうので少しずつ段々と難易度を上げていきます。

やることはステップ2と同じです

ステップ3はステップ2とやることは同じです。ただ使う題材が変わっただけです。

英文を品詞分解し、和訳を出す。途中わからない単語があれば辞書を使って構いません。ただし、速読英単語内の日本語訳を見ながら品詞分解するのはダメです。

これを最低でも2周はやりましょう。

速読英単語は単語の勉強も兼ねています

品詞分解できるだけの基本文法を身に付けておくことは当然必要ですが、それだけではなく、単語も覚えていきましょう。速読英単語は知らない単語があってもいけないレベルです。段々と辞書無しで全文を品詞分解できるようにしましょう。

といっても特別に単語の勉強をする必要はありません。中学生版は最低でも2周行いますが、同じ文を読むと「この単語前にも見たな(調べたな)」と見覚えのある単語が増えていきます。これが単語勉強になります。

ステップ4へ移る目安

まず最低でも2周は全文を品詞分解して和訳を出しましょう。

ステップ4へ移る目安としては、

- 速読英単語1冊全体をだいたい辞書無しで品詞分解できる
- 1題につき10~15分程度で品詞分解が終わる

の2点がクリアできればステップ4へ移る頃合いです。

ステップ4：高校入試レベルの英文を読めるようにする

次は各都道府県で行われている模試の過去問です。この時点でかなり英文が読めるようになったと思います。

今までの生徒を見ていて、「なんか読めるようになってきた!」と自信を持ち始めるのはこの段階からが多いです。

その自信は過剰ではなく本物です。実際に段々と英語力が高まっています。高校入試で偏差値 60 を安定して越えられるレベルまであと 1 歩です。

具体的な模試の解き方

1. 模試の過去問を普通に解く(制限時間も守る)
2. 採点する
3. 間違えた問題を全て解き直す(制限時間は無視して良い)
4. 長文問題はステップ 2~3 と同じように、全文を品詞分解して和訳を出す

やることはステップ 3 までと同じです。まずは普通に制限時間を守って過去問を解き、採点します。その後間違えた問題を「なぜ間違えたのか」「どうすれば正解に気づくことができたか」を意識しながら解き直します。

その後長文問題はいつも通り全文を品詞分解し、和訳を出しましょう。ここでも模試の解答内にある日本語訳を見ながら品詞分解するのはダメです。辞書は使って当然構いません。

どうしても分からないところ誰かに必ず聞きましょう

解答を見てもなぜその訳になるのか分からない、なぜこの単語が使われているのか分からない、などどうしても分からない場合は必ず学校の先生や塾の先生に聞いて解説してもらってください。

模試も単語の勉強を兼ねています

音読パッケージと中学生版がそうだったように、過去問も単語の勉強を兼ねています。

模試も知らない単語がないレベルにしましょう。

その年の模試や各都道府県立入試の過去問等でも同様です

ステップ 4 は入試しやすさから各都道府県で行われている模試の過去問を使っていますが、他にもその年に行われた模試、各都道府県立入試の過去問、私立高校の過去問でも同様の方法で勉強が可能です。

ステップ5へ移る目安

ステップ3と同じく、まず過去問を解いたら最低でも1度は全文を品詞分解して和訳を出しましょう。

ステップ5へ移る目安としては、

- 過去問の点数が8割を越えている(リスニング部分を除いて計算すること)がクリアできればステップ5へ移る頃合いです。

ただし、ステップ5に移っても毎日ステップ4はやしましょう。英語は使わなくなるとすぐに能力が下がっていきます。

毎日長文部分だけでもいいので必ず毎日読み続けましょう。

ステップ5：リスニング開始

ステップ5まで来たあなた。お疲れ様でした。よくがんばりましたね。

もう模試では偏差値60以上を安定して取れると思います。偏差値60以上の私立高校の過去問もだいたい解けるようになったと思います。

ここまでの英文読解力を身に着けた今こそリスニング勉強の始め時です。

英文が聞き取れるのはなぜなのか？

まずは【英文が聞き取れる人は、なぜ英文を聞き取れているのか】を知る必要があります。

答えは明快です。英文を聞きながら、品詞分解をして和訳を出す作業が並行してできているからです。

もちろん単語が聞き取れる(発音)、単語の意味を知っている(単語訳)必要はありますが、それ以前に英文構造を良く理解し、聞きながら品詞分解していけるようになる必要があります。

ここまで来ているならもうわかると思いますが、「第四文型」と「第五文型」の判別や、「to不定詞」「分詞」「接続詞・関係詞」など判別が必要な文法が英語にはあります。

「あっ、この形はきっと第五文型だな」「この使い方は形容詞的用法だな」と素早く判断する力がリスニングには必要です。

ここまで音読パッケージ・速読英単語 中学生版・模試の過去問と読み続けて、段々と深く考えなくてもこれらの判別ができるようになってきていると思います。

この力がリスニングには必要不可欠なのです。

だからここまでひたすら英文を品詞分解して、和訳するという作業をこなしてきたわけです。

どういう勉強法なのか

リスニングはステップ4までと違い、8段階に分かれています。面倒ですが、リスニングの基本となる勉強法のうち、

- ディクテーション
(聞いた英文を書き取る)
- リピーティング
(聞いた英文を繰り返す)
- シャドーイング
(聞いた英文をリピーティングより早いタイミングで繰り返す[輪唱に近い])
- 音読

の4つの方法を組み合わせています。この4つの方法は有名なリスニング勉強法で、どれか1つでも十分効果があります。それをすべて組み合わせた、とにかく確実にリスニング力を上げる勉強法になっています。

リスニング勉強に合った教材(音源)

リスニング用教材を選ぶときには3つのポイントがあります。

1. 台本がついてくること
2. 内容が一気に全部流れるものと、1文や1段落ごとに一時停止するポーズ付きの2種類があること
(ポーズ付きがなければ、自分で一時停止してもOK)
3. 文法的・内容的に難しすぎる内容でないこと
(台本を品詞分解して和訳が出せるレベルであること)

使う教材の流れ

1. 音読パッケージ
2. 速読英単語 中学生版
3. 各都道府県の模試の過去問
4. 各都道府県の模試や入試問題

の順に進めていくと難易度的にはちょうどよいです。

リスニング勉強の実際の流れ

1. まず何も見ないで、音源を流して聞き取れた内容をどんどん書きなぐっていく。英文でも単語だけでも OK。聞き取れたものをどんどん書き留めていくこと。これを聞き取れる内容がなくなるまで続ける。音源は全文が一気に流れるものを、途中で止めずに通して流す。
2. 次に音源の台本をステップ 2~4 の要領で品詞分解して和訳を出す。
3. 和訳を出したら、この文章を【1】の方法でもう一回聞く。この時に台本や自分の和訳を見ないこと。ここで音源の英文が飛び飛びの単語ごとではなく、英文として聞き取れて、和訳まで瞬間的に出るなら OK。そのまま数回聞き続けたあとに他の文章に移る。

もし【3】で音源だけでは英文として聞き取れない、単語しか聞き取れないなら【4】以降を行うこと。

4. 今度は台本を見ながら音源を聞いて音読・黙読をする。どちらでも良いが音読のほうが効果がある。音読は発音を気にする必要はない。音源の真似をする程度で OK。

音読・黙読に慣れてきて、「そろそろ聞き取れそう」と感じるようになったら【3】をもう一度行う。

もしまだ聞き取れない場合は【5】に進む。

5. また【1】に戻って音源を聞き直す。ただし、今回は1文ごとや1段落ごとなどで止めながら聞いて良い。ポーズ付きの音源が有るならポーズ付きの方を使っても良い。特に聞き取れない部分があるならそこを重点的に聞いても良い。
6. 台本を見ながら音源を聞いて、再び音読・黙読をする。ここでも1文ごとや1段落ごとなどで止めながら聞いて良い。ポーズ付きの音源が有るならポーズ付きの方を使っても良い。
7. 次に台本を見ないで、音源を聞きながら音読・黙読をする。1文ごとや1段落ごとなどで止めながら聞いて良い。ポーズ付きの音源が有るならポーズ付きの方を使っても良い。
8. 最後にもう一度【1】に戻って聞き取れるようになっているか確認する。まだ聞き取れない場合は【4】以降を繰り返す。

リスニング勉強に使える音源

前ページの方法と並行して、海外の有名人のスピーチや洋画を見るのも良いです。ログミー: <http://logmi.jp/category/goodspeech> などのサイトで興味のあるやつを探してみるといいかもしれません。ただし、日本語字幕の無いやつ限定です。

YouTube の一部の動画には字幕自動生成機能がついているものがあります。これを使うと字幕のない動画にも自動で字幕を足してくれます。

他にも洋画を英語音声・英語字幕で見るのもおすすめです。

ここまで来ると息抜きとして映画を見ることすら英語の勉強につながります。

ここまで頑張ってきたご褒美です。お疲れ様でした。

ステップ1~5 の合間に：

細かい時間にも英語に触れることで英語脳を身につける

当たり前の話ですが、使えば使うほど、読めば読むほど、聞けば聞くほど英語に慣れることができます。

英語に慣れることのメリットは、慣れることで「さあ、英語を読もう」という覚悟が不要になり、その分体力や集中力を温存できることです。

普段意識していないかもしれませんが、英語が苦手な人は英語を読む時に心の何処かで「英語読むのか...」「面倒だなあ」など精神的に負担になっているはずです。これが「英語アレルギー」です。

この精神的負担(英語アレルギー)はあなたの体力を削ぎ、そして集中力を削ぎます。

過去問を見たことがある人なら、長文問題を見た時に「うわっ長っ」と思ったことがあると思います。それが精神的負担です。

人の体力・集中力には限りがあります。

ただでさえ英文を品詞分解して和訳を出すことに体力・集中力を使うのですから、せめて英語を読むということに対してくらい気楽になれたほうが良いに決まっています。

英語に慣れる具体的な方法

とにかく英語を読む・聞く・話すをすればなんでも良いのですが、過去に私や生徒たちが実際にしてきた方法をご紹介します。

- 携帯電話の言語設定を英語にする
- 洋書を読む(オックスフォードブックワームがおすすめ)
- 海外の幼児向けアニメを英語音声・英語字幕で見る
- 洋画を英語音声・英語字幕で見る
- YouTubeで海外の有名人のスピーチやインタビューを見る

こうした方法で英語に対する抵抗を減らしています。コツは「1日中英語を目にする・耳にするにはどうしたらよいか」を考えることです。ステップ1~5でも英語に慣れることは十分可能ですが、ここの方法を休憩時間や通学中などの細かい時間に取り入れることでより速く英語に慣れることができます。

ただし、あくまでも休憩時間や、空き時間に行ってください。すべて「気楽に」やるのが続ける秘訣です。

肩の力を抜いてやりましょう。少しでもストレスを感じるならやる必要はありません。

Q：単語や熟語の勉強は要らないのですか？

A：基本不要です。音読パッケージ・速読英単語 中学生版・模試の過去問の単語が全て分かれば、試験本番で単語に困ることはほぼありません。何周もして全てを覚えましょう。その時には、単語の「スペル」「発音(音のみで発音記号は不要)」「品詞」「意味」を覚えましょう。

Q：英文法テキストが覚えられません

A：学校の先生や予備校・塾の先生に解説をしてもらい、可能なら練習問題を作ってもらいましょう。もし頼める人がいない場合は西原塾への入塾を強くおすすめします。週のコマ数にもよりますが、文法のみであれば1~2ヶ月程度で済みます。ステップ1にも書きましたが、この基本文法なしでは英語は絶対に読めるようにはなりません。基本文法だけは確実にマスターしましょう。

Q：長文を読むときは速読する必要がありますか？

A：ありません。自分のペースで読みましょう。最初は遅いですが、何回(何冊)も読んでいくうちに自然と速くなります。これが『慣れ』です。「速く読もう」と意識する必要はありません。

Q：長文中にどうしても分からない構造があります

A：学校の先生や予備校・塾の先生に解説をお願いしましょう。分からない所は必ず分かる人に聞いて、放置しないでください。

Q：日本語訳を見ながら品詞分解してはいけないのですか？

A：絶対にしないでください。英語の和訳は、英文を品詞分解する→直訳(カタコト訳)を出す→それをきれいな日本語に変換する(和訳)の順に進めていきます。本来日本語訳は1番最後に出てこなければなりません。日本語訳を見ながらだと、単語の訳から英文全体の訳を推測する誤った方法が抜けず、いつまでも品詞分解ができるようになりません。

Q：この勉強法はどの試験にも通用するのですか？

A：長文問題重視の試験のみです。単語・熟語などの文法重視の試験には相性が悪いです。英検とも相性は良くないです。私立高校は学校によって問題が異なるので、必ず過去問で出題傾向を確認してください。

Q：1日どれくらいのペースでやればよいですか？

A：まず各ステップの目安は、

- ステップ1：基本文法は1單元ごとに、完璧に覚えられるまで次へ進まない
- ステップ2：音読パッケージは1日3題
- ステップ3：速読英単語は1日5題
- ステップ4：過去問は1日1回

です。これを目安にあとはその日の気分に合わせて調整して構いません。気分が乗っていてやる気がある日は目安以上に解いて構いませんし、疲れていたり気分が乗らない日は目安よりも少なくして構いません。ただし、**必ず毎日勉強してください**。音読パッケージや速読英単語は1題のうちの1段落だけでも構いません。過去問は大門1つだけでも良いので必ず毎日勉強するようにしてください。

Q：試験の点数が上がりにません

A：**非常に良い英語力を身に付けていますので安心してください**。ステップ4まででは時間内に英文を読む訓練、つまり、意識して英文を速く読む訓練はしていません。実際の試験では、普段以上に速く正確に読むことを求められますので最初は点数が低い状態が続きます。あたりまえの状態ですので気にしないでください。変わらずに音読パッケージ・速読英単語 中学生版を毎日読み、模試と過去問を解き続けてください。段々と点数が上がっていきます。

Q：並び替え問題が解けません

A：**おすすめの勉強法は、作文を書くことです**。音読パッケージ・速読英単語・洋書など題材はなんでも良いので感想文または要約文を書くことをおすすめします。自分で英文を書くことで五文型やto不定詞の用法、関係詞の働き、「前置詞+名詞=前置詞句」など多くの基本的な文法を身につけることが出来ます。高校入試の並び替え問題は受験英語と呼ばれるような特殊な文法ではなく、英文を作る上で基礎となる文法が問われているのがほとんどです。その文法をまとめたのが「西原塾の英語テキスト」なので、このテキストを片手に英作文をしまくってください。また、**作文を書いたあとは必ず学校の先生や予備校・塾の先生に添削をお願いしてください**。

Q：偏差値 65 以上の上位の私立高校を受けるのですが？

A：まずはステップ4まで完璧にしましょう。音読パッケージと速読英単語 中学生版で使われている単語・熟語に知らないものがあるのはいけません。この時点で人によっては大半の私立高校の英語が読めるようになっています。速読英単語まで完璧にこなしたら、模試の過去問→志望校の過去問の順で解きましょう。模試で正解率が9割に達したら志望校の過去問に移って構いません。

Q：短期間で英語力を上げたいのですが？

A：この勉強法はもともと最小限の暗記+長文読み込みというシンプルな構成で組まれているので一部を省く事はできません。ただ、この勉強法全体の流れを高速で行うことは可能です。2016年度の生徒に、約1.5ヶ月(夏休み)で偏差値42から偏差値62にまで成長した子がいます。

洋書を読む時の心得

ステップ1~5まで以外に洋書を読みたい人や、並び替え問題対策で洋書を読みたい人向けに洋書を読む時に気をつけるべき点を説明しておきます。

心得1：辞書は使わないこと。

→ステップ2~4では辞書OKでしたが、洋書では使わないでください。わからない単語がある度に辞書を見ては1冊読み終えるのに途方も無い時間がかかります。その時点で「気楽に読む」という目的が果たせないなので、辞書は使わずに読みましょう。

心得2：読めない単語・熟語は意味を推測しつつ飛ばすこと。

→本全体のあらすじが分かれば良いです。細かい部分は前後の話の流れから大体の意味は推測できるはずです。分からない単語が多すぎて話の内容すら追えない場合は難しすぎる本を選んでいきます。見栄をはずずに1レベル下げましょう。

心得3：“they”や“it”など、指示語が指すものを把握すること。

→“they”や“it”を「彼ら」「それ」と訳してはいけません。その「彼ら」や「それ」が『一体何なのか』まで内容を読み取りましょう。

心得4：本の内容を絵にして頭のなかで描きながら読むこと。

→ただ文字を追っているだけでは内容は頭に入りません。誰が何をしているのか、どんな場所にいるのかなど頭の中で絵を描くことで内容が理解しやすくなります。

心得5：読んでいる本がつまらないなら読むのをやめること。

→本来読書は好きな本を読むものです。今回は英語の勉強のために半強制的に読んでもらっていますが、その中でもできるだけ自分が読みたいと思う本を読んでください。

心得6：内容が6~7割分かるまで何度でも読むこと

→読書は読むことが目的ではありません。内容を『理解すること』が目標です。なので内容が理解できなければ2回でも3回でも読んでください。逆にだいたいのあらすじが分かったのであれば1回しか読まなくても構いません。「1回読んだんですけど分かんなかったんですよ〜」は読んでいないのと同じです。

要約文・感想文を書く時の心得

心得 1：要約文・感想文を書くときは本を見ないこと

→要約文・感想文ともに書く前に本の内容を頭に入れておきましょう。全部入れる必要はなく、あらずじで構いません。頭に残っている内容を英語で書いてください。頭に残っているくらいが要約文にはちょうどいいです。

心得 2：本の文章をそのまま使わないこと。

→本文を書き抜いてはいけません。巷では「コピペ」と言いますが、絶対にしないでください。本文から単語を減らしたり、一部を変えてもダメです。英語勉強の最初に行った英文法テキストを見たり、思い出しながら自分で英文を作ることに意味があります。本文から使うのは単語程度にしましょう。ちなみに、塾長がいた大学ではこれを破ると退学処分になりました。

心得 3：辞書は使わないこと。

→書きたい表現がある・・・でも単語がわからない・・・そんな時は『似た意味』『同じ系統の意味』を持つ単語を使いましょう。単語だけでなく文章も、言いたいことが英語で書けなければ似た方向性の意味を持ち自分で書ける英文にしましょう。

心得 4：自分が100%使いこなせる単語・文法のみ使うこと

→要約文・感想文で求めているのは本の内容や感想を『採点者に伝えること』です。難しい単語や複雑な文法を使った結果支離滅裂になってしまっただけでは本末転倒です。また、難しい単語を使おうと簡単な単語を使おうとミスは減点対象です。「難しい単語を使ったから・・・」と甘く見たりはしません。だったら簡単な単語を使ったほうが安全でしょう。

心得 5：なるべくテキスト上の文法に挑戦すること

→難しい単語や文法を使う必要はありませんが、いつまでも自分が100%使える文だけでは進歩がありません。授業で渡したテキストに載っている文法はぜひ使ってみてください。今読めない・いまいち分かっていない文法でも書いてみると構造が分かったりするものです。辞書は禁止ですがテキストはどんどん見て構いません。

心得 6：感想文は意見→理由→例→結論の順に書くこと

→この順番がオーソドックスな感想文の形です。感想文の他にも『あなたは どう思いますか?』系の意見を問う作文でもこの形式を使ってください。要約文にはあてはめなくて結構です。

お問い合わせ先・西原塾の住所

塾名	西原塾
塾長	西原陽介
所在地	〒343-0045 埼玉県越谷市下間久里 551-14
電話番号	070-4033-5879（塾長携帯）
メールアドレス	nishiharajuku@gmail.com

ホームページ	Twitter	LINE	Facebook
			

教室へのアクセス

東武伊勢崎線(スカイツリーライン)大袋駅・せんげん台駅から徒歩約17分です。
ローソン 越谷下間久里仲田店の真後ろにあります。
茨城急行自動車通称「茨急バス」の「下間久里停留所」から徒歩1分です。

スカイプ・ラインでの在宅授業も可能です

教室に直接通うのは難しい方へはスカイプやラインを使った在宅授業を行っています。録画ではなく、生で授業を行いますので、指導内容は直接通う生徒と全く同じです。

「鹿児島県・奄美大島」「兵庫県」「栃木県」など全国各地の生徒が在宅授業を受けています。

お気軽にお問い合わせください。

ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。
また、お子さんに合わせた指導時間やカリキュラムなど柔軟に対応いたします。
お電話・メール・Facebook・Twitter・LINEなど複数のお問い合わせ方法をご用意しておりますのでお気軽にお問い合わせください。